

水稻生育情報（No.6）

令和8年7月21日
県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）

【気象と生育の概況】

本年5月第1半旬から7月第4半旬までの気象は、日平均気温が平年より **0.4℃低く**、日照時間が平年比 **99%で推移**しました。一方で、7月第3半旬から第4半旬では、日平均気温が平年より **2.0℃高く**、日照時間が平年比 **114%で推移**しました。

7月21日現在の水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況は、草丈は**平年並～やや高く**、茎数・葉色は**平年並**です。5月上旬移植の「コシヒカリ」が出穂始期（穂の1割程度が出始める時期）を迎えています。

表1. 水稻定点調査（7月21日現在：コシヒカリ）

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉色板) (SPAD値)	幼穂長 (mm)
土浦市	5月5日	60	98.8	413	4.1	34.6
飯田	(5月5日)	60	(89.1)	(379)	(4.0)	(31.2)
石岡市	5月15日	50	88.3	380	3.4	31.4
柿岡	(5月15日)	50	(88.0)	(396)	(3.8)	(30.9)

※（ ）内は平成28年～令和7年の10か年平均値

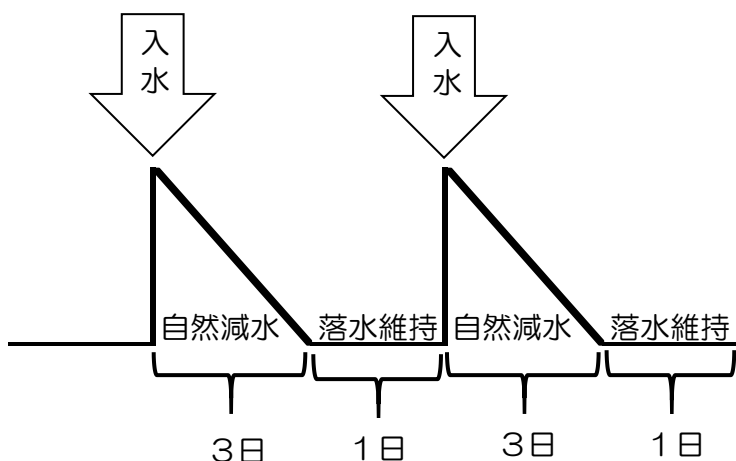
【今後の栽培管理のポイント】

1 水管理

高温登熟による白未熟粒、胴割粒等の発生を防止するため、間断かんがいを実施します。出穂期以降の間断かんがいは下図のように入水と自然落水を交互に繰り返します。出穂してから最低30日間は間断かんがいをを行い、イネの根に水と酸素を供給して下さい。

入水時期の目安は、田面に触れると「湿り気を感じる程度」から「水が付着する程度」です。田面が乾きすぎないように十分注意します。

出穂期以降の間断かんがい



2 カメムシ類対策

カメムシ類が出穂期～糊熟期にかけて穂を吸汁すると、不稔粒や斑点米の発生につながります。本年は7月上旬から水田内で発生が確認されており、例年よりも早期から、多数の発生が確認されているため、意識して防除を行います。特に、出穂が他の品種と差のある早生品種や晩生品種では無防除時の被害が大きくなるため注意が必要です。

※茨城県病害虫防除所から斑点米カメムシ類についての病害虫発生予察注意報が出ておりますので、そちらも併せてご覧ください。

●除草

出穂前は畦畔等のイネ科雑草に潜んでいるので、除草により生息密度を減らします。なお、出穂直前の除草はカメムシを水田内に追い込む事になるので、除草は出穂2週間前までにを行います。

●農薬による防除

①不稔・しいなの発生防止を目的（成虫が対象）とした防除適期：出穂期

この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

②斑点米の防止を目的（幼虫が対象）とした防除適期：出穂後8～10日頃（乳熟期）

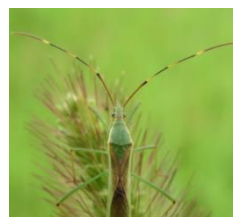
乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生が増えることから、この時期に防除することが重要です。



イネカメムシ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ

写真の出展：
茨城県病害虫
防除所 HP

3 適期収穫について

早刈りは千粒重が軽くなり、収量を低下させるとともに、玄米への青未熟粒の混入割合が増えて、落等要因となることがあります。逆に刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米・着色粒の発生が増えて、早刈りと同じく落等要因になりえます。適期収穫を心がけます。

ほ場で直接籾の色（帯緑籾率）を確認して適期収穫に努めて下さい。収穫適期は帯緑籾率が10%になってから5日間です。



帯緑もみ率(%)	収穫適期
5～10	適期
15	2日後
20	4日後
25	6日後
30	8日後
35	9日後
45	10日後
55	11日後

令和8年の気象の推移

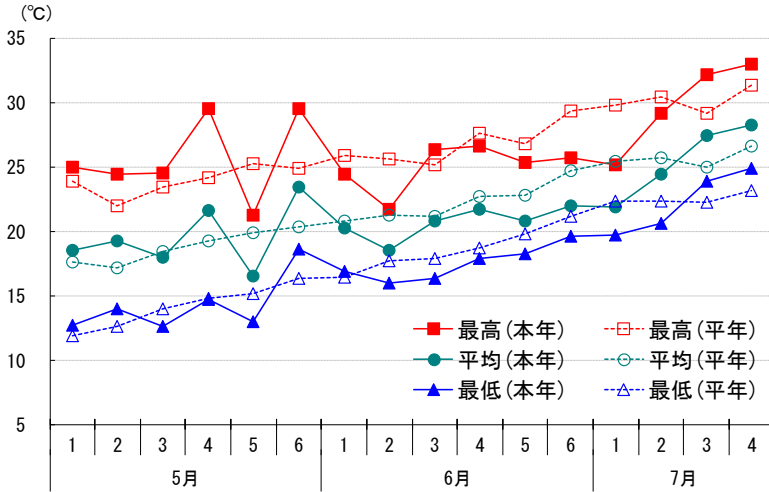


図1 半旬別気温の推移（土浦市）

注）平年値：平成28年～令和7年の10年間の平均値
アメダス土浦観測所データより作成

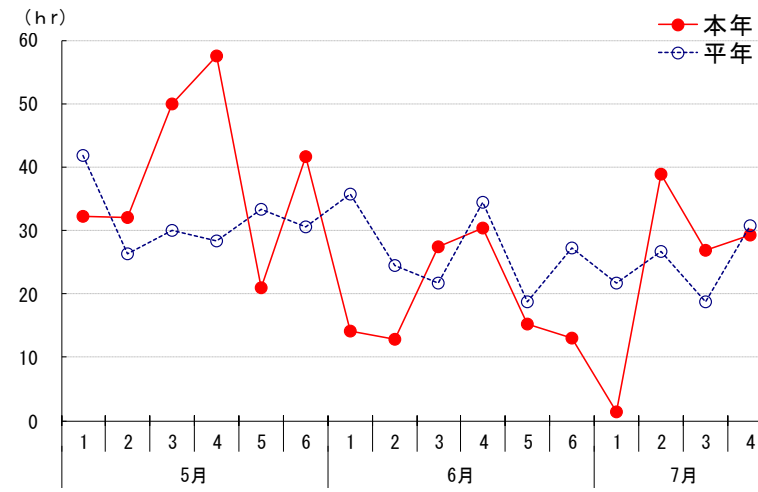


図2 半旬別日照時間の推移（土浦市）

注）平年値：平成28年～令和7年の10年間の平均値
アメダス土浦龍観測所データより作成

令和8年の生育経過グラフ

